

東日本大震災の記録

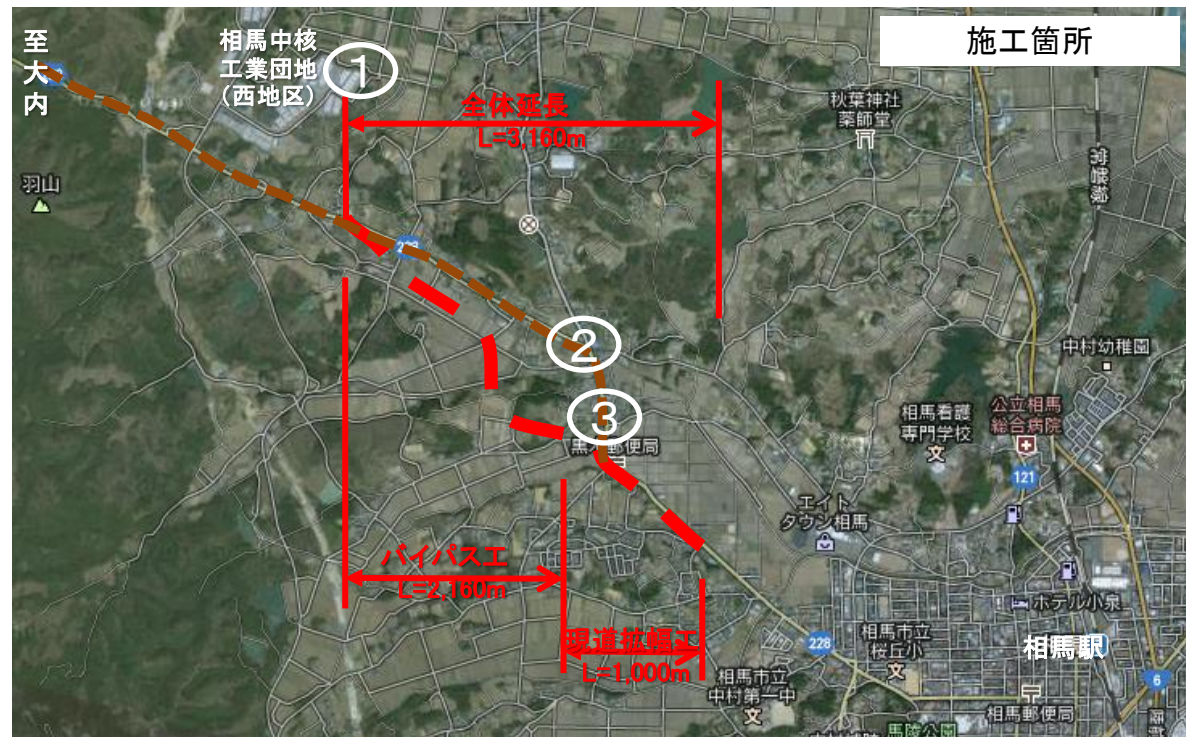
復興を支援する県道相馬大内線黒木バイパスの概要(途中経過報告)

相双建設事務所
道路課 技師 齋藤 卓

施工場所:相馬市黒木地内 黒木工区

1. 概要

- ・現道の幅員が狭く、自動車のすれ違い困難な箇所であり、相馬中核工業団地西地区への企業進出の増加などにより、朝夕の渋滞発生、交通事故の危険性が高まり、平成22年バイパス事業に着手した。
- ・3. 11東日本大震災を受け、津波や原発被害に遭われた被災者のための仮設住宅約700棟(約2,500人)が工業団地に建設され、このため一層交通渋滞が顕著となり、渋滞解消や安全安心な道路の確保が求められている。
- ・このため、早期な事業完成を図り、避難生活者の利便性の向上、そして相馬地域の復興の一翼を担うものである。



2. 経緯・課題

<経緯>

平成19年度 交通量実態調査
平成20年度 相馬市交通対策検討会
平成21～22年度 道路概略設計、ルート決定
平成23年度 用地買収着手、改良工着手
平成24年度 用地買収完了、工事発注完了

・早期完成のため、用地買収と工事を同時作業で進めており、交渉時の要望などを設計に反映することが出来ず、工事での対応が多々あり苦慮している。

①

仮設住宅状況



②

至大内



③

至大内



3. 内 容

【全体事業費】

10億円

【事業期間】

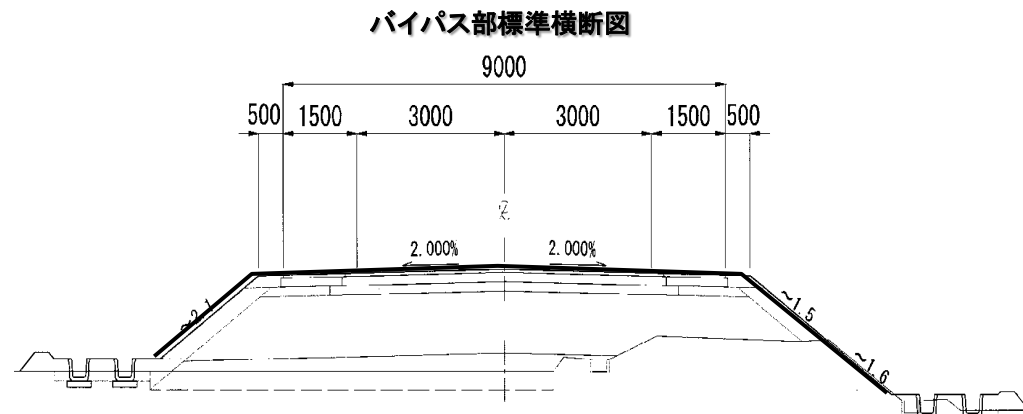
平成 22年度 ～ 25 年度

【事業内容】

バイパス部

改良・舗装工(1月末現在:進捗率60%)

L = 2,160m W=6.0(9.0)m



4. 進捗状況・創意工夫

- ・現在、改良工の進捗率が80%であり、3月完了を予定している。引き続き、舗装工、橋梁下部工、橋梁上部工について、工程調整をしながら早期完成を目指すこととしている。
- ・当該工区は、田畑等の農地の中を通過しており、稲作の耕作時期に合わせ、用排水路、耕作地への進入路などを早期整備し、耕作者への配慮を十分に行い進めた。
- ・本工事は、盛土区間がほとんどであり、約15,000m³の不足土のため、近隣他工事と調整・流用することとした。運搬にあたっては、近隣は住宅地のため、土砂搬入の際の運搬経路や砂埃などに留意し、通行者や沿線住民の方への配慮を行った。



タイヤ清掃状況



施工状況

5. おわりに

- ・当該工区の特徴として、移設物件が多岐にわたり(電力柱、NTT柱、NTT光ケーブル(埋設)、NHK共同アンテナ、水道管、下水道管、工業用水管など)関係機関との調整に苦慮している。
- ・地域、被災者などの利便性、安全性の早期実現のため、重点的に予算確保をしてもらい、平成25年度に工区完成を図ることとしている。また、管内では震災後の工事着工初の工区完成箇所となる予定であり、地域の復興に大きく寄与することを期待している。